

ハイデルベルク信仰問答より

問 56 「罪の赦し」について、あなたは何を信じますか。

答え それは、キリストの和解の御業ゆえに（Ⅱコリント 5:19, 21）、神は、もはや決して、私の罪や私が全生涯かけて戦わねばならない邪悪さを思い出さない（エレミヤ 31:34、ローマ 8:1-2）で、私が決して断罪されないために、キリストの義を、恵みによって頒けてくださる（ヨハネ 3:17-18）、ということであります。

使徒信条の最後を飾る三つの信仰告白：「罪の赦し」「からだの甦り」「永遠のいのち」を一つずつ見てまいります。今日は第一の「罪の赦し」です。私たちがキリスト者であるために、罪の赦しほど重要な真理はないでしょう。罪の赦しがないならば「キリスト者」は一人もいないことになります。私たちは罪赦されてキリスト者となったのです。

問 56 において、「『罪の赦し』について、あなたは何を信じますか」と問われます。これを「イエス・キリストはあなたに対して何をしてくださいましたか」と言い換えてみてもよいでしょう。私たちはこの問いに明確に答えられる必要があります。

本問答の答えは、二つの側面から「罪の赦し」を説明しています。

- ①「キリストの和解の御業ゆえに、神は、もはや決して、私の罪や私が全生涯かけて戦わねばならない邪悪さを思い出さない」
- ②「私が決して断罪されないために、キリストの義を、恵みによって頒けてくださる」

まず①の内容をよく読み取りましょう。ここでは「全生涯」と言われているように、私たちの人生全体の中で犯される罪の問題が扱われています。「過去」「現在」「未来」のすべてです。このように述べることは簡単ですが、私たちは実際なかなかその罪を具体的に把握することができません。自分がどういうところで罪を犯しているか、見えているのはごく限られた領域だと思われるのです。私たちの人生の領域を数え挙げてみると、時間、物理的環境（社会との関わり）、健康、仕事、お金周り、人間関係、教育／学習、趣味／娯楽、精神性／宗教性といった事柄が浮かび上がってくるでしょう。それら一つひとつの領域において、私たちには「戦わねばならない邪悪さ」があるというのです。「私の生涯の戦いにまつわりついた罪深い生活の仕方」（竹森満佐一）と訳されているものもあります。それぞれに時間を見つけて当てはめる作業をしてみるとよいでしょう。何をすることも、小さな不正や怠慢、分かっているながら罪に丸め込まれている状態ということがある。それは死ぬまで続く戦いであり、一個の人間としては罪から逃れ切ることはできません。

ところが、①では「神は、もはや決して……思い出さない」と言われています。そんな

ことができるのだろうか。現に罪をちょこちょこ犯している私たちを見て見ぬふりをしておられるということなのだろうか。そうではありません。神には同時に二つのことがおできになるのです。第一に、人間が犯している罪は神の目に透けて見えているのであり、心の中で思ったことや、歴史の裏側まで、隠されているものは一つもありません。それらはその瞬間に裁きの対象となっています。ところが、神は人間には絶対にできないことがおできになる。それは（第二に）、「主イエスの義」が覆いかぶさっている罪をまったく見えなくできるということです。また、同じ条件の下では、罪を「思い出さない」ということもおできになる。私たち人間には不可能なことが神には可能なのです。罪を全部知っているけれど、それをご自身の中で真っ白にしてしまわれる。そのゆえに、私たちの全生涯で犯される罪は、「知られていながら赦されている」という状態が常に成立しているのです。

わたしは彼らの咎を赦し、彼らの罪を二度と思い出さない。(エレミヤ 31:34)

次に②の内容を見てみましょう。ここでも「**キリストの義**」という表現が出てきますが、これこそが罪の赦しの要であることが分かります。すべての領域で神の義の基準を満たすことに失敗している私たちは、本来「義と認められる」ことはありません。そのような私たちのために神の側で用意してくださった「義」、それが主イエスが十字架上で全うされた神に対する全き従順であります。主イエスの生涯全体が、一個の人間として非の打ち所がなかった。神が義と認めざるをえない人生を主イエスは歩み抜かれたのです。そして、主イエスは人類を代表する祭司として、神に対してこの「義」をお示しになりました。その義を見て、神は信じる者の人生に 100 点を付けておられるのです。そして、この点数が決して減点されることはないでしょう。

「**決して断罪されないために**」という表現は力強い。それは、私たちが懸命に神の御前に正しくあろうとするのではなく、神の側で私たちが断罪されない道を用意してくださったということの意味します。

このような恵みにあずかった私たちは、そのゆえにこそ自分の罪と戦うのです。この人生のあらゆる領域に入り込み、しつこく私たちにまつわりついてくる罪は、赦されているから放置してよいということではありません。すべてが赦されているがゆえに、その赦しにふさわしい生き方を志していくのです。キリストの義が私たちの全生活に現れてくることを私たちは目指しています。そして、これらの戦いには常に主イエスがバックに付いてくださっているからこそ、私たちは安心して身を委ねつつ、主と共に戦い続けることができるのです。

- ・ しかし、勇敢でありなさい。わたしはすでに世に勝ったのです。(ヨハネ 16:33)
- ・ しかし、私たちは、私たちが愛してくださった方によって、これらすべてのことの中にあっても、圧倒的な勝利者となるのです。(ローマ 8:37)